

# 松谷化学工場

短食二の二 高 部 信 子

この工場を見学する前にハリスガムの工場を見学したのだが、なんだかガム工場の方が、私たちには親しみ易く、予備知識も一般に普及されているのに関し、糊料の方はあまり関心がない。ただ澱粉から糊を製造されているのだろうと考えていた。一体糊に於ける日本の消費量は大工場を経営する程多く使用しているのであろうか……と。

しかし、中へ入って主任さんの詳しい説明により「さつまいも」あるいは「じゃがいも」から得られる多くのものに、今更ながら、おどろいた。食品材料だけを見ても「 $\alpha$ 化澱粉」「水飴」「澱粉糖（グルコース）や更にグルコースから出発した「ビタミンC」や「グルタミン酸ソーダ」など実にいろんな製品が出来てくるのである。化学薬品から日常食品に至るまで作られる糊料を私たちはもつと深く知る必要があるのではなかろうか。

大きな水槽。その中には泥状の黄土色をした原料が入れている。九州からわざわざ運んで来るのだそうだ。交通機関が便利になった現在ではあるが、ふとこの工場が原料地九州にあつたらどうだろうという疑問もわいてくる。

大きなタンクの中に灰色に濁った水を色抜き臭抜きしている。あんなにきたなくくさい液体からサラサラとした真白い粉が出来てくるとは一体誰が考えよう。

工場の中は機械のゴーゴーという大きな音がみよりにひつそりとした感じを与える。大きな建物、大きな機械、大きな音、この中に人間が小さく数少ないことが強張されて。

「オートメーション化」された現在、両工場を見学して、人間の能力の偉大さを新たに感じると共に国民全体にもこういふ知識の必要性を感じた。これらすべての動力を一挙にひきうけて、黙々とけむりをはいている工場、そこに働く先輩の方々に見送られて帰路についた。